

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立東与賀小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童（生徒）の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和7年4月17日(木)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

児童(生徒)に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、 基本的生活習慣、家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、 学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

(2) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

■ 教科に関する調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は、小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語、算数・数学、理科に限られています。さらに、出題は、各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■調査結果及び考察

1 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(1) 結果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と肯定的に回答した児童(生徒)の割合。

佐賀市学校教育ビジョンに関連する調査項目	本校 %	全国平均 %
学校に行くのは楽しいと思う。	83.5%	86.5%
将来の夢や目標を持っている。	90.4%	83.1%
自分には、よいところがあると思う	82.2%	86.9%
学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	83.6%	84.9%

※「将来の夢や目標を持っている」の項目は、全国平均より高い結果が出ています。

家庭学習の様子に関する調査の項目	本校%	全国平均 %
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	12.3%	12.1%
「2時間以上、3時間より少ない」	11.0%	12.8%
「1時間以上、2時間より少ない」	23.3%	29.1%
「30分以上、1時間より少ない」	24.7%	27.4%
「30分より少ない」	23.3%	12.9%
「全くしない」	5.5%	5.7%

※家庭学習については3時間以上の児童が全校平均より多いですが、一方で1時間未満の児童が5割近くおり、中には全く家庭学習をしていない児童もいました。個人差が大きい結果が見えてきました。

(2)改善に向けての取り組み

【学校では】

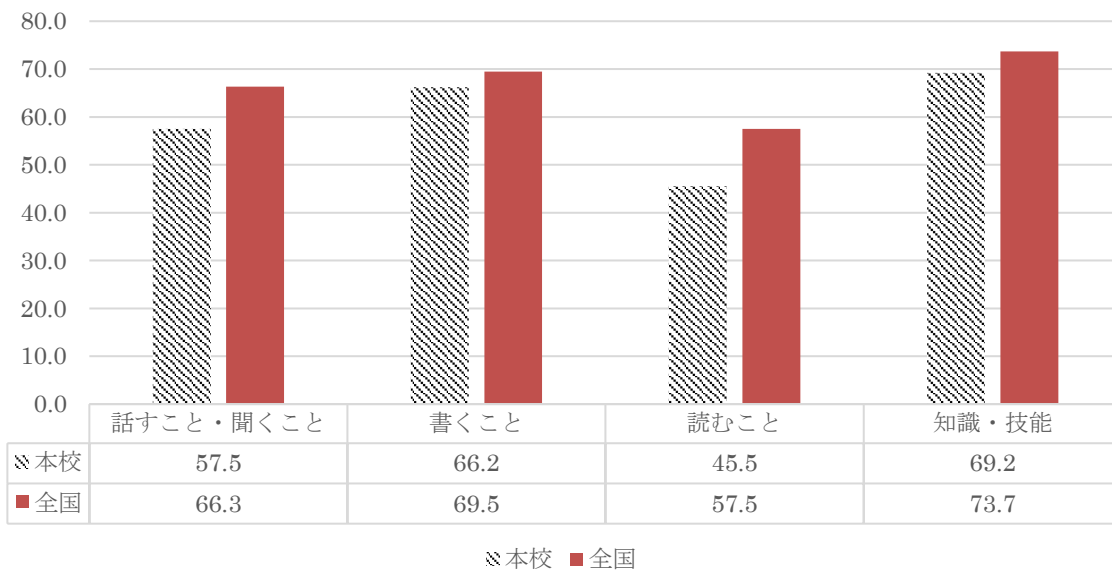
- 主体性を伸ばすための3つの力「自律」「尊重（自由の相互承認）」「創造」を育んでいきます。「学校に行くのは楽しい」と子どもたちが思えるように、主体的、対話的で深い学びの視点で、日々授業改善を行って授業づくりをしています。
- 学校からは、発達段階に応じた宿題を出しています。自主学習（自学）についても高学年で取り組み、手本となる自学ノートを掲示したり、友達とノートを見せ合ったりすることで定着しつつあります。これから中学年にも少しずつ広がっていきます。
- 始業前の朝の読書の推奨をしたり、図書委員を中心に読書イベントをしたりするなど、読書の機会を増やすための工夫をしています。また、読む本についても発達段階に応じた本（物語や伝記、小説など）を選書するような声かけを継続していきます。

【ご家庭では】

- 上記の項目は、改善を図ろうと「よかつこ家学・家読チャレンジカード」でも取り上げている項目です。「家学・家読チャレンジ週間」だけでなく、規則正しい生活と家庭学習の定着することは、極めて大切なことです。お子さんが自分からできたとき、少しでも向上したときを逃さず、褒めることで意識が更に高まります。
- 年度初めに配付しております「学校家庭学習の手引き」をご覧ください。学習時間の目安（6年生は70分）や、自主学習の説明を参考に、自分で決めて学習できるように励ましてください。自主学習については、「自学のすすめ」として、様々な自学の例をお子さんに提示しておりますので、参考にして進めるよう、お声かけをお願いします。

2 国 語

全国平均正答率との比較（小学校国語）



(1) 結 果

全ての領域で全国平均をやや下回っています。

また、無解答率をみると、ほとんどの問題で全国平均よりも低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「知識・技能」の正答率が、昨年度（県調査）より11.8ポイント上回りました。国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの内容領域の根幹をなす言葉の力で+あり、普段から、漢字や言葉の学習、音読などの成果が表れていると考えられます。課題は、問題形式の「記述式」の正答率を上げることです。正答率49.3%は、全国平均正答率58.8%を大きく下回っており、苦手になっている児童が多くいます。主体的な学びの視点で授業改善を図り、児童の記述力を高めることが、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の力を伸ばすことにつながると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

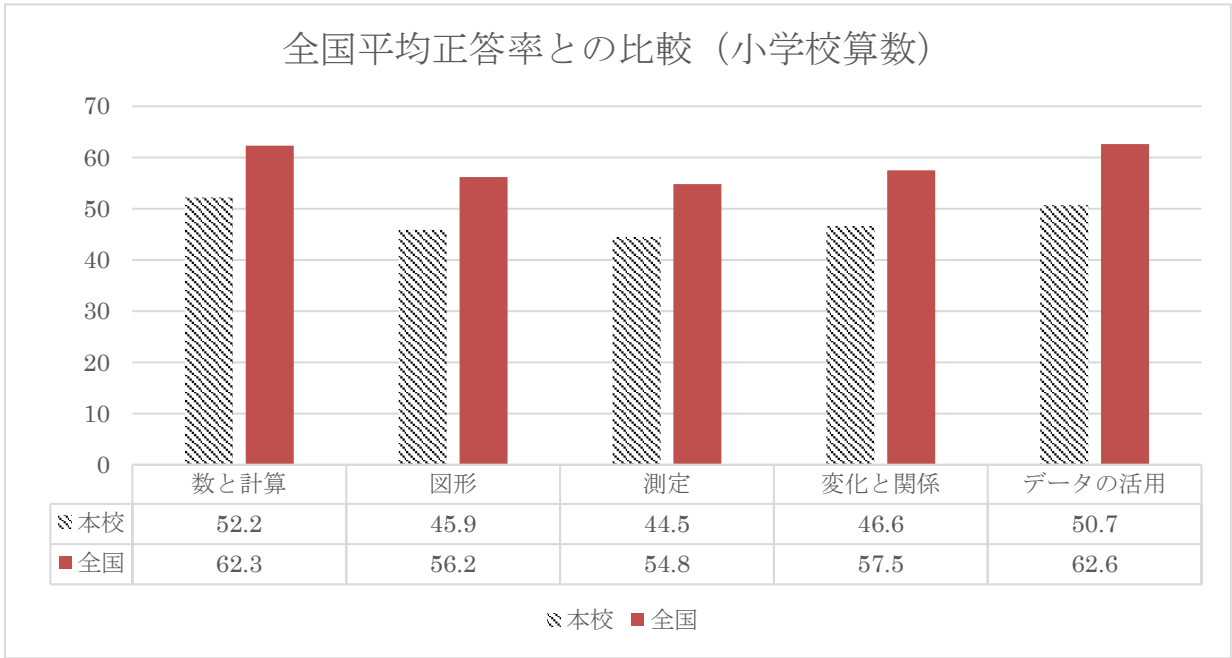
【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、子ども同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながらかく機会を増やしたり、インタビューや案内したりするなど、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。
- 漢字の読み書き、ことわざ等の学習に一層力を入れるとともに、辞書を活用させ、語彙力を増やします。

【ご家庭では】

- 音読を大切にしていましよう。繰り返し音読することで、文の構成、文節ごとの区切り、言葉の意味を理解することができ、要点や意図を捉えることもつながります。
- 読書を大切にしていましよう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろんな本を読み、いろんな表現や用語にふれることで、「読む」を楽しめるようになります。市立図書館や本屋に定期的に行くことも、お子さんの読書習慣をつける上でおすすめです。

3 算数(数学)



(1) 結果

全ての領域で全国平均をやや下回っています。
また、無解答率をみると、ほとんどの問題で全国平均よりも低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「思考・判断・表現」の正答率が、昨年度(県調査)より0.8ポイント上回りました。また、「A 数と計算」の領域の、加法と乗法の混合した式の計算問題の正答率が全国平均とほぼ同等でした。「A 数と計算」の領域の、グラフから項目間の関係を読み取る問題の正答率や、「D データの活用」の領域の表から条件に合った項目を選ぶ問題で正答率が全国平均を大きく下回っていました。今後、グラフや表の結果の様々な読み取り方をして、結果から考察し、関連づけることができるようにすることが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

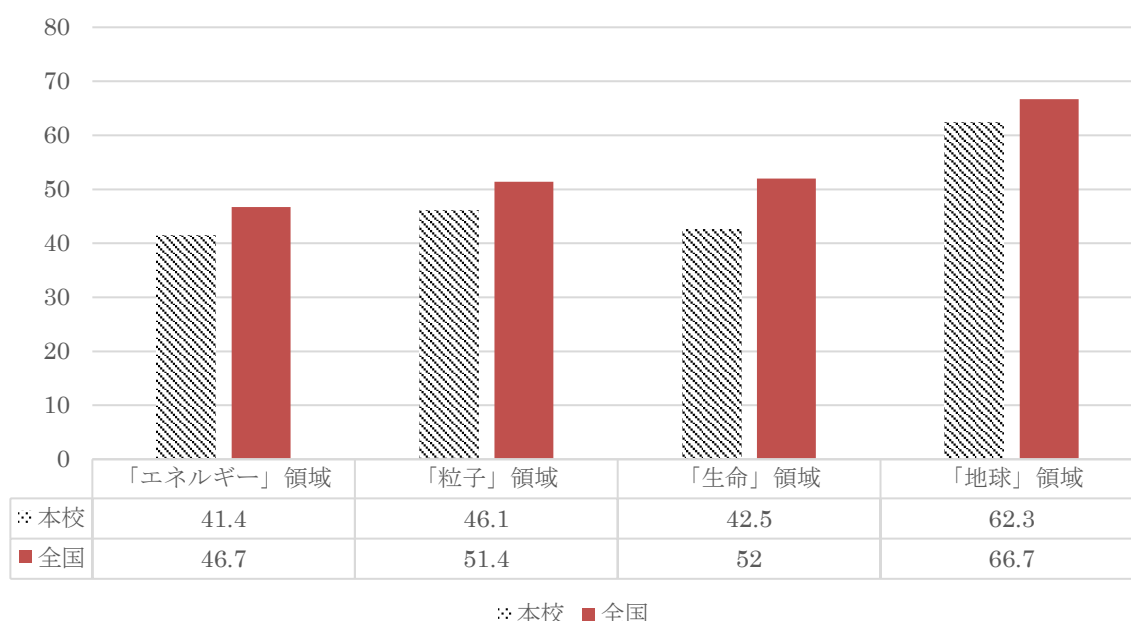
- 表やグラフ、データを読むだけでなく、項目間の関係を読み取ったり、項目の条件を考慮して結果と関連づけたりする活動を取り入れ、思考・判断の能力の向上に努めます。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 算数が好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」という経験をさせることが有効です。生活場面で算数を使ってみてください。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」など、ちょっと意識するだけで、身の回りには算数を使えるものがたくさんあります。

4 理科

全国平均正答率との比較（小学校理科）



(1) 結果

全ての領域で全国平均をやや下回っています。

また、無解答率をみると、ほとんどの問題で全国平均よりも低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「地球」の領域の現象の違いをまとめたわけについて結果を用いて書く問題の正答率が全国平均正答率を3.9ポイント上回っていました。また、「エネルギー」の領域のまとめからその根拠を実験の結果を基にして書く問題の正答率も1.5ポイント上回っていました。自然現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えを記述する問題が全国平均正答率を下回るなど、問題形式の「記述式」の問題でも課題が見られました。日々の授業で説明する活動、書く活動を継続して取り入れ、記述した内容を確認させることが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 理科の学習過程を「事象提示→課題→予想→実験・観察→結果→考察→課題・・・」とし、一貫した学習指導を行うことにより、児童の思考力、判断力、表現力を向上させます。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、結果に対する考察を論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。

【ご家庭では】

- 理科が好きになる場合も、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。星空を見上げて星座の話をしたり、コップの結露の理由を考えたりすることで、習ったことと日常生活での現象を結びつけると理解が深まることもあります。
- 佐賀県立宇宙科学館や佐賀県立博物館などのイベントチラシ等も配布しております。お時間があるときに一緒に行ってみることで、興味関心が向上することもあります。

調査結果全体の概要（文部科学省による結果分析） R7. 8. 8

①教科調査の結果 国語では、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることや、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことなどに課題が見られました。

②算数・数学では、数直線上の分数を捉えることや、百分率を倍を使って捉え直し表現すること、あらかじめ書かれている図形の証明を評価・改善することなどに課題が見られました。

③理科では、電気が通る回路を実際の生活の中でつくることや化学変化を原子や分子のモデルで表すことなどに課題が見られました。

④質問調査の結果 学校及び児童生徒に対する質問調査の結果から、

- ・「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだと考える児童生徒や、ICT 機器を活用 することができると考えている児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られました。
- ・全ての教科において、授業の内容がよく分かると回答した児童生徒の割合が減少し、学校の授業時間以外の勉強時間が減少傾向にあることなどが明らかになりました。

⑤家庭学習の充実のための、学校の取り組み

- ・家庭との連携を図りながら、発達の段階に応じた学習計画の立て方や学び方を促したりするなど家庭学習も視野に入れた指導を行うとともに、これを踏まえた予習・復習など家庭での学習課題を適切に課することが重要です。

以上を踏まえて、本校でも学力向上のために、なお一層の改善を図ってまいります。家庭との連携も必要不可欠ですので、共に連携を取り、協力して子ども達の学習をサポートしていきましょう。